



photo 藤田佳久

「演者の思いが伝わるとき、手拍子をする姿が心を打つ楽器となる」

懐かしい歌謡曲を口ずさむ「うたごえ喫茶」で笑顔に

当ホスピスで毎月行っているイベントの中には、民謡やピアノ、コーラスなどボランティアの方々の力を得て様々なコンサートも催されています。

「心地よい時間を過ごしていただきたい」とできるだけ多くの患者さんやご家族に参加いただいています。普段は声かけにも反応が乏しい状態でも、拙くたどたどしい動きで拍手をされたり、声がなかなか出なくても一緒に歌を口ずさむなど病室では見られなかった反応を目にすることも少なくありません。「心が洗われたようだ。本当にありがとう」と感涙された患者さんは、病室でも音楽を聴くようになり、曇りがちだったお顔も曲にまつわる昔の話を表情豊かに語ってくれるように変わったのです。また、「こんな笑顔を見たのは、病气して以来久しぶりです」と喜び涙されていたご家族は、患者さんが旅立たれた後も、その時のことを嬉しそうに話してくださいませ。

週に一度の「喫茶」の日には、懐かしい歌謡曲や唱歌を患者さんやご家族と共に口ずさむ「うたごえ喫茶」が1時間だけ出現します。その日、入院されたばかりのAさんも娘さんと共にはじめは緊張した面持ちで座わり、静かにコーヒを飲んでいました。いつものようにボランティアさんの歌やピアノに合わせ歌っているとAさんが歌詞を見ながら一生懸命に歌っていました。Aさんは酸素吸入をし、普段は話をしていても息切れを生じてしまうというのに。部屋に戻ったあとと苦しくないか尋ねたところ、「大丈夫」とおどけて笑う余裕のAさんの横で、3曲も歌ったのだと驚いた娘さんが教えてくれたのです。初参加の記念にと娘さんと写した写真は、楽しさが溢れるそんな笑顔が並ぶ素敵一枚でした。

一緒に歌っているとたくさんの笑顔に出会い、私達も元気を分けて頂くのです。そして、病室では見られない患者さん達の姿から、音楽や歌うことの力の凄さ、それによって引き出される人の力に凄さを感じ、私も口元が緩んで、下手ながらつられて歌ってしまうのです。

田邑 昌子・文
函館おしま病院
ホスピス病棟看護師長



たむら しょうこ
根室市出身。北海道立釧路高等看護学院卒業。
平成18年函館おしま病院勤務。
平成24年緩和ケア認定看護師資格取得。
平成26年5月より同病院ホスピス病棟看護師長に就任、現在に至る。